

平成27年度 第2回 岐阜市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成27年7月10日（金）13時30分～14時30分
- 2 場 所 岐阜市役所本庁舎低層部4階 第1委員会室
- 3 出席者 細江市長、勝野委員長、矢島委員、小野木委員、中島委員、足立委員、早川教育長
- 4 傍 聴 一般1名
- 5 次 第 (1) 市長あいさつ
(2) 事務局説明及び協議
・大綱の策定について
(3) その他

6 議 事

(13時30分開会)

○事務局 定刻になりましたので、只今から、平成27年度 第2回 岐阜市総合教育会議 を開会します。それでは次第に沿って進めてまいります。市長から、あいさつをいただきます。

○細江市長 皆様、こんにちは。本日は、第2回目の総合教育会議であります。6月30日に、安倍内閣は、「経済財政運営と改革の基本方針2015」いわゆる「骨太の方針」を閣議決定し、公表しました。この「骨太の方針」の副題は、「経済再生なくして財政健全化なし」となっております。つまり、日本は多くの借金を抱えています。これを解決する方法は経済再生で、景気を良くして、税収を増やして、日本の財政を良くしようということを行っています。

一方で、教育に関しては、岐阜市が日頃言っていることと大変近いことを言っています。経済成長の源泉は「人」であり、「教育を通じた人材育成」は極めて重要な先行投資であるということ。次世代のための「人への投資」を行って、「富の継続的創造」を図るという観点から、財政の「質の改善」を図るということ。長期的な成長を見据えた「ワイズ・スペンディング（経済学者ケインズの言葉で『賢い支出』）」とし、メリハリをつけて対応するということでもあります。この骨太の方針の内容は、岐阜市が予てから主張していることであり、「人への投資」は、岐阜市の売りの一つであります。望むらくは言葉だけにならないで、実際にそうした財政執行に努めてほしいと期待をするところです。

二宮尊徳翁の言葉に「経済のない道徳は寝言である。」という言葉があります。私は予てから「経済のない行政は寝言である。」と言っています。つまり、お金がなくては、いくら素晴らしい政策を語ろうとも、それを実現できないわけです。まずお金が必要だということで、岐阜市は、これまで、徹底的な行財政改革に努めてきました。職員定数の見直し、職員給与の適正化、市営バスや保育所などの民営化、そして市の借金を減らしてきたことです。国がこうしたことに触れず、景気を良くして、税収を増やして、国の借金を減らすと言っていることには違和感がありますが、岐阜市は、徹底的な行財政改革によって支出を減らしてまいりました。今年度からは、い

よいよ、増やす政策を行っていきませんが、国のように、徹底的な行財政改革をしないで借金を減らそうと考えているわけではありません。

資源小国という言葉もあると聞いていますが、資源が乏しい我が国においては、人こそが唯一、最大の財産、資源だと言ってもよいですから、私たちは教育を行政の真ん中に据えて、教育立市を標榜し、教育によって選ばれる町を目指しています。これからも、教育や子育てに積極的に投資をしていきたいと思っています。

最近、教育制度改革が様々に言われています。そこでの視点は、かつてのように安定した社会であれば、それまでの価値観をそのまま用いることができますが、社会の変化が非常に早くなってきている現代にあっては、これまでの常識では回答の出せない事案がたくさん出てきます。そうした事態にしっかりと対応できる子どもを育てていかななくてはならないわけです。アメリカのニューヨーク市立大学の学者である、キャシー・デビッドソン氏は、「2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。」と予測しています。今ある職業を前提にした教育を行っても、将来、学んだことが使えないかもしれないと言っているわけです。このように、我々は、社会の変化が大変厳しくなる時代を迎えようとしていますから、子どもたちが自分の頭で考え、社会の変化に伴い生じる新たな課題に、自ら挑戦していける、そんな子どもたちを育てていかななくてはならないと考えています。

本日は、こうしたことを踏まえ、岐阜市の教育大綱を策定するために協議をしていただきます。岐阜市の将来を担ってくれる子どもたちのために、是非、閣下に議論をいただき、良い大綱ができることを期待しています。

岐阜市は、これまで、教育を前面に立ててやってきましたが、世間では、漸く、国をあげて、教育の重要性を唱えるようになってきました。岐阜市は、それに遅れることなく、教育立市の先駆者として、その先を走っていきたいと思っていますので、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

○事務局 本日は、大綱の策定について協議をお願いしたいと考えております。事務局で、大綱の方向性についての素案を用意してまいりましたので、ご説明申し上げます。

(説明略)

○事務局 説明は以上です。ご意見はありますか。

○細江市長 大綱にグラフを入れるのですか。

○事務局 より分かりやすくするために、グラフを入れました。

○細江市長 すでに、岐阜市は優秀だということをこのグラフで言うのですか。そういう優越性

をこれからも頑張っ保っていこうという趣旨ですか。

○**事務局** 基本的な学力の面では、かなり成果を挙げているという現状の説明として入れさせていただきました。

○**細江市長** 現状把握として、岐阜市は、既に一定のレベルに到達していることについて言及するのは良いと思いますが、グラフを入れるのはどうでしょうか。

○**勝野委員長** このデータは、あまりインパクトがないですね。

○**細江市長** 1位を目指すということを書いているのなら良いですが、今、私たちがしていることを書くのはどうかと感じます。

○**事務局** 勝野委員長はいかがでしょう。

○**勝野委員長** 大綱を補足的に説明するための資料として、別途あっても良いと思いますが、大綱であれば、グラフは入れなくても良いかなと思います。

○**細江市長** 言葉で何か表現をすると良いと思います。大綱のイメージは、このような綺麗な絵でなく、基本的な言葉を並べているのが大綱だと思います。こういうものがあっても良いと思いますが、グラフまで書き込むのはどうかという気がします。勝野さんが仰ったように、補足資料としてグラフを出すのは良いと思います。

○**事務局** その他、ご意見はありますか。

○**勝野委員長** 2つほどあります。目指す方向はこれで良いと思います。大綱に書き込めるかわかりませんが、これらを作り上げていく仕組みの1つとして、やはり教師が重要です。質の良い教師を集めたり、現役の教師の質を高めたりしないと、成果を挙げられません。

それに関連して、評価の仕組みです。定量的に評価できるものもあるが、そうではない定性的な部分もかなり多いと思います。そうした定性的な部分を評価し、フィードバックできれば、非常に具体性が出ると思います。ただ、大綱での記載は難しいかもしれません。

○**細江市長** もう1つ感想を述べますと、2番目の「岐阜市が重点的に取り組む施策」に、土曜授業、ICT教育、市立図書館、英語でふるさと自慢、STEM教育など、現在行っている事業が並んでいます。子ども・若者総合支援センターも、子ども未来部も、既にあるものです。

しかし、成績の結果を表したグラフは過去の結論であるし、並べてある様々な施策は今までや

った、或いはやっている施策です。大綱ですから、これからこういうことをやっていく、将来何をやっていくということを書くべきではないかと思います。これらの事業も参考として書いてあっても良いと思いますが、これから取り組むことを書かないと、既にやってきた事業を継続していただくになります。将来こういう方向に向かって、こういうことをやりながら、これを実現していくというものにすべきだと思います。大綱では、未来志向で、何をやっていくかを示唆していかなくてはならないと思います。

○早川教育長 そういう意味では、アクティブ・ラーニングと、小野木委員がいつも仰っている部活動がポイントだと思います。教育界では、アクティブ・ラーニングをどのように位置付け、どのように取り組んでいくのか、どういう形で解釈していくのか、手探りになっていますが、そこにチャンスがあるわけです。

○勝野委員長 イメージが先行してしまっていますね。

○細江市長 アクティブ・ラーニングの反対にあるのはパッシブ・ラーニングです。つまり、詰め込み型で、先生から覚えるように言われたものを覚えて、先生から与えられた宿題をこなすものです。最初はそれがあっても良いと思いますが、それから、自発的に色々な分野の勉強をしたり、色々な本を読んだり、インターネットで色々調べたりするようになってほしいのです。中央教育審議会では、アクティブ・ラーニングの重要な要素として、自主性と、他の人との協働性の2つを挙げています。指示待ち人間を育てるのでない教育を目指すべきだと思います。

具体的にどうやっていくかといった施策を大綱に書く必要はありませんが、例えば、イングリッシュ・キャンプや図書館などの施策を書く必要はなくても、アクションプランや、道筋のようなものを示すべきだと思います。印象として、先程のグラフや、岐阜市の重点的な施策を見ると、今までやってきたことをまとめているように見えます。岐阜市の現状を踏まえて、大綱に基づいて、どこへ進んでいくかということを示すべきです。

先程、勝野委員長が仰った教師の質の向上については、中央教育審議会も触れています。今まで、岐阜市なりに、教育研究所を使って努力してきましたが、教師の質の向上についてこれから何をやっていけるかを、どこかで言及すべきだと思います。例えば、高校との交流、先生の交流などです。高大接続改革は、文部科学省がこれからやっていこうとしていますが、小中や中高の連携も大事なテーマです。具体的な施策、方法論を考えながらになります。具体的な個別の事業があったとしても、それを謳うのではなく、その事業を包含するような上位概念を書く方が良いと思います。

○勝野委員長 上手な書き方をしないとイメージが悪くなってしまいますが、自分たちが住んでいる地域に誇りを持つ教育が重要です。国際化や、グローバリズムも非常に大事ではありますが、やはり足元をしっかりとしないといけません。地域に誇りを持つ教育をどこかに入れたいとい

う気がします。岐阜市は、優れた自然環境など、素朴な意味で誇りを持ちやすい環境があります。

○細江市長 大綱に入れるかどうかの議論は後にして、自由に話していただいて、その後で整理するのはどうでしょうか。

○事務局 中島委員はいかがでしょうか。

○中島委員 今、細江市長が仰ったように、既にできていることが並んでいるだけなので、平成29年度末までの大綱には、現状をどのようにステップアップしていくのが書かれていると、夢が持てると思います。例えば、大綱案の中に、放課後児童クラブが入っていますが、現状では、子どもの預かりという感覚ですので、これをどう学びに繋げていけるかが大切だと感じます。

それから、大綱案の中に子ども・若者総合支援センターが記載されています。子ども・若者総合支援センターができて、縦割りが横の連携に変わったことは非常に嬉しいことですが、地域とのネットワークを深めてもらうことを大綱に入れていただけると非常に嬉しいです。

また、コミュニティの形成の一環として、防災教育を入れていただきたいと思います。昼間に災害があった場合、地域にいるのは中学生と高校生、そして年配の方です。小学生や幼稚園児は大人に守られる側になるかもしれませんが、中学生や高校生は地域を守る側になってほしいと思っています。災害時に、子どもたちの活躍や地域との繋がりが必要になってくると思いますので、防災という言葉がどこかに使われるとありがたいと思います。

○細江市長 岐阜市民病院の院長と話していましたら、知育・徳育・体育・食育に加え、医育と言っていました。言葉が良いか悪いかは別として、命の大切さ、或いは将来病気にならないため子ども時代からの予防医療、健康づくりの大切さを医育と言うことは、岐阜市らしさを出すという意味では、検討に値する分野だと思います。

○早川教育長 個別にがん教育や性教育などもありますが、それらを合わせて医育と言ってもよいかもしれません。

○細江市長 医者「医」に「育てる」で、「医育」です。新しい造語として面白いと思います。

○勝野委員長 何でも「育」を付けるのはあまり好きではないです。

○中島委員 食育などがありますね。

○勝野委員長 食育というのも、怪しいと思います。何でも「育」を付けてしまうと。

○事務局 足立委員はいかがでしょうか。

○足立委員 大綱は大本の方針です。市民の皆様にお示しするものですから、本になるもの、4つなら4つの根本だけで示し、その詳細がこうであるというように持っていったほうが分かりやすいと思います。勿論、大綱を決めるためには現状の把握が必須ですが、皆様にお示しするのであれば、この資料のような形ではないほうが良いと思います。

○細江市長 矮小化されてしまうかもしれませんね。

○足立委員 このように1・2・3で並べるよりも、基本計画がそのまま大綱になるのなら、大綱は4本柱でこうですとお示したほうが良いと思います。

先程、評価について勝野委員長が仰いました。学力は評価しやすいと思いますが、それだけでなく、これからの社会を生き抜く受動的でない子どもたちを育てるにあたり、どういう子どもが育ったら、どういうことができたか、この教育方針がよかったのかについての評価方法を考えていくことが必要だと思います。場合によってはどういう人生が良いのかということになってしまいますから、難しいのはよく分かっています。学力は数字で評価しやすいと思いますが、例えば、将来に向かう意欲について評価するのであれば、全国学力・学習状況調査で夢を持っている岐阜市の子どもたちの割合は低かったと思いますが、夢を持っている子どもたちの割合がアップすれば、成功したというような評価法です。評価法を持たないことには、我々の教育が良かったのか悪かったのか判断できませんから、評価法を考えていくのが良いのではないかと思います。

○事務局 小野木委員はいかがでしょうか。

○小野木委員 私が言いたいことは、社会を生き抜く力の必要性です。会社を経営していて感じるのですが、今、本当に若い人たちが弱ってきています。

今年から、従業員が50人以上の事業所でストレスチェックを実施することが決まりました。精神的を病んでしまう人たちが増えてきているからだと思います。そうした中で、社会を生き抜く力が必要なのですが、残念ながら、教育において、これは論じられてこなかったと思います。その結果として今の状況があるのだらうと思います。ここに重点を置いてやっていただきたい。

社会を生き抜く力に関する岐阜市の施策の例として、土曜授業が上がっていますが、少し違うのではないかと思います。いかにして、精神的な強さ、メンタルタフネスを身に付けることができるかでしょう。社会に出たら縦社会ですので、中学校や高校のときに縦社会を経験させてあげることが大事だと思います。今のところ、学校ではクラブ活動でしか経験できません。社会を生き抜く力を経験させていない弊害が出てきているのではないかと思います。もしクラブ活動ができないのであれば、違う方法で縦社会を経験させるかです。

何が正しくて何が間違っているか、人間として尊敬されるとはどういうことなのか、軸となる

部分を誰も教えていません。明治時代や江戸時代の寺子屋では、そこを教えていたように思います。その時代の人たちがヨーロッパに行ったときに、現地で尊敬されたのは、その部分がしっかりしていたからだと思います。日本人の人間力を教育でしっかりと養っていくために、何をすべきかを是非とも考えていただきたいと思います。

先程、勝野委員長から地域に誇りを持つという話がありました。岐阜の先輩に素晴らしい方々が沢山いますので、その素晴らしい先輩の人たちを誇りに思っています。素晴らしい先輩の生き方に、少しでも倣えればいいなと思える成功事例として、教育で教えてほしいと思います。どう生きたら良いかわからず、知識さえあればいい大学に行けて、いい会社に入れるのではないかと考えているのではないかと感じますが、それは違うと思います。岐阜には様々なジャンルで成功されている人たちがいる、中には中学校を卒業してから社会に出られて成功されている方も沢山いますので、そういう人たちを子どもたちに教えて、「色々な成功モデルがあります。色々な形で尊敬されるモデルがあります。選ぶのはあなたたちですよ。」と提供してあげることが大事だと思います。岐阜の素晴らしい人たちに誇りを持つこともあって良いと思います。

○勝野委員長 アクティブ・ラーニングとして、課題解決型で、好きな課題でやれというのはふわふわして駄目だと思います。やはり、ケーススタディとしてしっかりと検証する中で、自分がやりたいことを考えていくという形になるのでしょうか。子どもたちは、今の話のような、地域の尊敬できる人を知らないですから、そういう人たちのケーススタディは1つのテーマとしてありうるのではないかと思います。

○細江市長 地域への誇りという括りからすれば、今仰った偉大な先人もあれば、素晴らしい歴史もあれば、自然環境など様々な切り口があると思います。地域への誇り教育を行うとしたら、人、歴史、環境など様々な分野で取り組んでいけると思います。

今まで出ているのは、教員の質の向上、評価システムの構築、地域の防災、社会を生き抜く力でしょうか。社会を生き抜く力は、社会性と言えらると思います。ひ弱いというのは、甘やかされて育った人が、社会に出ると縦社会で、上司に「寝惚けるな」とぼんと言われて挫けてしまうようなものではないかと習っていないので、自分がいいと思って前に出たら、壁に直面して挫けてしまう。社会の秩序を含めた社会性をしっかりと学ばせるということもあって良いと思います。

○早川教育長 以前、小野木委員が、例えば掃除を、もっと効率的な道具を使って早めに終えて部活動の時間を長くしたらどうかと話されていて、面白いなと思いましたね。

○小野木委員 学校の先生方が、授業以外の部分に相当エネルギーを取られていて、部活動に携わっていないのは事実だろうと思いますので、クラブ活動をやろうとするならば、非常勤で、熱意を持っている方にやってもらわないといけないかもしれません。今の部活動では、残念ながら

ら中途半端になってしまって勿体ないです。

○**細江市長** 部活動などを通じた社会性の向上ということでしょうか。

○**小野木委員** 中学生や高校生の時に、1回か2回は悔し涙を流した経験が、将来絶対に生きてくると思います。それが打たれ強さになってくると思います。

○**細江市長** 強靱な若者育てというタイトルでしょうか。強い若者を育てるということです。

○**勝野委員長** やり方としては非常に難しいです。

○**細江市長** 先ほど小野木委員が、若者がひ弱化していると言われましたが、ひ弱ではない子どもというのは、強い気持ちだけでなく、それを支える知識や経験や精神力、色々なものが必要となります。

○**早川教育長** 青年会議所が主催した2泊3日の無人島生活や、今年度から実施するイングリッシュ・キャンプ in GIFUの応募は非常に多いです。親も安心して預けられて、かつ鍛えられる機会を望んでいると思います。

○**事務局** 矢島委員はいかがでしょうか。

○**矢島委員** この協議事項の大綱案を見て、感想と質問を申し上げます。「Ⅰ現状の把握と社会情勢の変化」についてですが、現状の把握としては、全国学力・学習状況調査の点数が棒グラフになっているだけです。社会情勢の変化としては、「国際化、情報化、少子化・高齢化の進展等」と記載されているだけです。現状と社会情勢の変化をしっかりと記載しているとは思えないのですが、この辺りは議論する時間がなかったのでしょうか。

それから、「Ⅱ4つの基本的方向性と岐阜市が重点的に取り組む施策」とあり、「Ⅲ大綱の計画期間において重点として掲げる方向性」と記載があります。重点的に取り組む施策と重点として掲げる方向性は、どう違うのかが少し分かりません。また、起業家精神の醸成、アントレプレナーシップについて、概念を書くスペースがなかったかもしれませんが、よく分かりません。そして、「教育機会の格差に立ち向かう」とありますが、「立ち向かう」とは何だろうと思います。全体として、あまり練れていない気がします。

○**細江市長** 一言で言うと、言葉が踊っているということですね。

○**矢島委員** これは感想ですが。

○**細江市長** その通りだと思います。

○**勝野委員長** 先程、小野木委員が仰った部活動については、非常に難しいと思うのですが、先日、ある中学校を訪問したときの話を申し上げます。長らく荒れていると言われていた学校ですが、校長先生をトップに、先生方が非常に一所懸命で、子どももそれに協力して、まだ完全にいい形になっているのではないのですが、皆で状況を変えていこうという気持ちがこちらに伝わってきました。部活動とは少し違いますし、無人島に行って活動するというような単純なものではないですが、目の前に子どもたちにも分かる困難があるわけです。そこで先生方が先頭になって取り組んで、子どもたちも協力するという形は、非常に教育効果があると感じました。

非常に印象に残っているのは、校長先生が新しく来られて、雰囲気のがらっと変わったという話でした。校長先生が先生の評価を極めて的確にしています。一人ひとりの先生がどういう能力を持っていて、どういうことをやって、どういう可能性があるか、そういう中で、生徒はうまく育っていくのではないかと思います。

それから、問題を抱えて授業を受けられない子どもがいると思いますが、ピアティーチングを取り入れていくことも大切だと思います。仲間で助け合って、子どもたちでできる部分は子どもたちでする仕組みづくりや環境づくりをすることは、大綱に書き込むことではないですが、非常に大事だと思います。

○**事務局** その他、何かございますか。

○**細江市長** 説明資料3ページのスケジュールについて聞きたいのですが、パブリックコメントを8月以降に始めると書いてあり、次の第3回総合教育会議が10月6日になっています。今の議論を聞いていると、協議事項の大綱案を少し修正して、パブリックコメントに堪え得るものになるとは思えません。もう1回、スケジュールを考える必要があると思います。

それから、アクティブ・ラーニングに関して印象を申し上げますと、これまでの教育というのは、教えられたものを学ぶ場だったと思いますが、これからの教育は、自分が学ぶことに対する動機づけを得る場、自らが学ぶための動機を得る場ではないかと思います。

4年前にフィンランドに行ったのですが、そこでは、子どもは学校で学んだ後に教科書を置いて帰ります。教科書を持って帰らないのです。学校で、算数の掛け算のやり方を習いますが、そこで学んだものを丸暗記するのではなく、家に帰って、習ったものをベースにして、自分の好きなことをさらに深めていくというものでした。

全てのことを教えることは不可能な時代になってきています。世の中の技術はどんどん進歩し、学ぶべき物理や化学など沢山ありますが、基本はしっかりと教えても、全てを教え尽くす時代ではありません。一部を教えてもらうことによって、自分の好きな分野を自ら学ぶことが大事だと思います。

そういう意味では、今回、910席ある岐阜市立中央図書館ができて、学校でモチベーションをもらった子どもが図書館に来て、周りの人たちが真剣に勉強している雰囲気や、或いは溢れる書物に囲まれることで更にモチベーションを高めることができます。ノーベル物理学賞を受賞した益川教授が仰っていたのですが、この本が読みたいなと思って図書館に行ったときに、本棚の横をちらっと見たら、別の本にも目移りしてそれも読んで、未知の世界にどんどん入っていけるということでした。モチベーションを与えることなく、先生が教えたことを覚えなさいとだけやっていたら、そういうことは絶対に不可能です。だから、学ぶ動機付けをさせる、なぜ学ぶのかということ、人生にとって学ぶことがいかに有用で必要であるかということ、学ぶことが楽しいということなどを教えてあげることが教育ではないかと思います。これを大綱に書き込めるかどうかは分かりませんが、是非、そういうことを考えていかななくてはならないと思います。

○勝野委員長 細江市長が最初に言われたことは大切だと思います。言うは易し行うのは難しですが、パブリックコメントには、形だけオープンにするということではなく、岐阜市民が見て、参加しようとか、岐阜の教育は面白いとか、簡単で良いので印象強く思えるようなものを作って臨むとよいと思います。

○細江市長 例えば、参考資料の3ページに、岐阜市の教育振興基本計画として、グローバル社会、セーフティネットなど4つ書いてあります。それにそれぞれ、例えばグローバル社会であれば、その具体的な事業としてICT教育、土曜授業などが書いてあります。大綱の位置付けは岐阜市の教育振興基本計画よりも上位であろうと思いますが、それはどうなのでしょう。大綱は、計画よりもっと漠然としているべきものですが、大綱案にはグラフなど非常にディテールが入っています。

○勝野委員長 米百俵みたいなものもいいと思います。非常にインパクトがありますよね。

○細江市長 今日、皆さんがいろいろと出されたご意見、脆弱な若者をもっと強くしなくてはいけないとか、そのために社会性を、或いは縦社会を経験させるとか、防災が大事であるとか、他人の命を傷つけない、自分の命を守ることも大切という医育や、先生の質をどうやって高めていくべきであるとか、そういったことを漠然と書いて整理してみると良いのではないかと思います。もう少し上位概念を書いた方がよいと思います。

○早川教育長 足立委員が仰られたのもそういう話ですか。

○足立委員 大綱ですから、それこそ、一言で良いかもしれませんが、3つ、4つになっても良いかもしれません。

○**細江市長** 矢島委員さんが仰ったように、言葉遊びをやめて、起承転結をはっきりした方が良いと思います。

○**事務局** その他、何かございませんか。

○**細江市長** それぞれ大変重要なことを仰ったと思いますし、それに対して、事務局もいろいろと考えていると思います。大綱が、もう少し上位概念であるということを前提にして、1・2・3という目次の作り方も、大目次から中目次、小目次までであると思いますが、整理した方が良いと思います。10月まで待って、それからパブリックコメントでは、スケジュールに合っていないので、1回整理したものを各委員にお送りして、コメントをいただくなど方法を考えた方が良いと思います。

○**事務局** 方法は色々と考えさせていただきます。スケジュールについても見直します。

○**細江市長** 大綱には法律的な策定の期限がありますか。

○**事務局** そのような縛りはございません。スケジュールや内容について、もう1度精査いたします。

時間になりましたので、これもちまして、協議を終了させていただきたいと思います。本日は大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。スケジュールを含め見直して、ご報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の会議録については、後日ホームページでの公開を予定していますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日までご出席いただきました小野木委員ですが、7月30日をもって退任されることになっております。総合教育会議へのご出席は本日最後となりますので、ご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○**小野木委員** 教育委員会委員としては短い期間でしたが、本当にありがとうございました。早川教育長を始め、教育委員会の皆様や学校の先生方が、本当に真摯に、一所懸命子どもを育てていらっしゃる姿勢に、私自身、様々な部分で勉強になり、また感動しました。

一方で、先程も申しましたが、日本の若い人たちが、世界で通用するかどうか難しくなっております。日本という国の中で、教育の役割は、ますます重要になってきております。是非とも、教育委員会の皆さんに、誇りをしっかりと持っていただいて、素晴らしい人材を岐阜市から輩出していただけるように、頑張っていただければと思っています。

委員は引退をさせていただきますが、一市民として、これからも岐阜市の教育に対して、支援させていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。

○事務局 それではこれを持ちまして、平成27年度第2回岐阜市総合教育会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(14時30分閉会)